

(別記)

令和4年度大衡村地域水田農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

大衡村は宮城県のほぼ中央に位置しており、耕地面積1,634ha、うち水田面積1,084haで良質米ひとめぼれ、ササニシキの産地としての水稲が基幹品目になっている。また、花き、椎茸、畜産（乳牛、繁殖牛）、野菜等との複合経営が行われている。また、村内には4法人が存在し、大豆や麦といった土地利用型の作物に取り組むほか地域農業の受け皿となり、農地集積に励んでいる。

近年では、農業者の高齢化と担い手不足が原因で農家戸数は減少しており、今後は担い手農家の育成と農地集積、生産基盤の整備が課題となっている。

認定農業者あるいは一定規模以上の面積を耕作し、将来的にも地区の農業を担える者を、地区での合意形成のもとに、担い手として位置付けをし、農地の利用集積を推進するとともに、担い手個人では農地の維持にも限界があるので、担い手同士が結び付き組織を設立しての営農、または集落で組織化を図っての営農を推進し、将来的には法人化に向けて努力する。

水田をフルに活用し主要な転換作物である大豆や飼料用米への取り組みを推進し耕作放棄地の解消にも取り組んでいく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

大衡村では村内法人が取り組んでいる大豆、これまで稲作をやってきた農業者の作業が大幅に変わることがないことから比較的転換しやすい飼料用米が主な転換作物となっている。今後について、低コスト生産導入を推進していくとともに、ほ場一区画あたりの面積が小さいことから、農地の集積、作付けの団地化について、農業者へ周知を図り、面積の拡大による作業の効率化を図る。また、新たな市場及び需要の開拓について、関係機関と連携・協力しながら検討していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

大衡村では近年において、畑地化の推進についての取組みがなく、農業者からの畑地化の意向も確認できていない。ただし、数年にわたり畑作物を作付している農業者も散見されるため、実情に応じて畑地化の推進を検討していく必要がある。

水田利用状況点検の結果として、農業法人が耕作している農地で水利等の耕作条件が整っている水田ではブロックローテーションが取り組まれているところがあるが、開田等の耕作条件が整っていない水田においては特に進んでいない。今後、確認調査を実施し、数年間畑作が継続している水田、水稲の作付実績のない水田を引き続き点検する。対応方針については点検結果を踏まえたうえで、関係機関と連携・協力しながら所有者と協議のもとおこなっていく。また、子実用とうもろこしやブロックローテーションに対する意見交換を行い、取組に向けて検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

米の需要動向を見極めつつ、消費者の嗜好性にあった、売れる米づくりを目指す。

- ① 品種は、ひとめぼれ、ササニシキ、コシヒカリ、まなむすめ、つや姫、だて正夢、みやこがねもちを推進する。
- ② 米トレーサビリティ法を遵守し、消費者が安心できる安全な米づくりを推進する。
- ③ 水田の有効活用並びに作業効率の向上を図るため、担い手等へ農地の利用集積を推進し、生産コストの一層の低減を図る。

(2) 備蓄米

取組なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米にかわる転換作物の中心作物として、実需者の需要に応じた供給を行うため作業集積や低コスト化を図りながら、複数年契約を締結し作付の拡大を推進する。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

取組なし

エ WCS 用稲

国からの産地交付金を活用しながら、作業効率の向上及び生産経費の削減を目指すために2ha以上の団地化を推進するとともに、利用集積による生産拡大と直播栽培への取組みによる低コスト化を図る。また、需要先である村内畜産農家及び周辺市町村の畜産農家と連携を密にしながら生産拡大を図る。

オ 加工用米

農業者が取り組みやすい作物として、需要者等との複数年契約を推進し、経営の安定化を図る。また、担い手への集積の取組を支援し低コスト生産を推進する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦については、今後の需給バランスを注視しながら生産拡大について検討を図っていく。

大豆については、転換作物の中心作物として、団地化による作業効率の向上や生経費の削減を図るとともに、本村担い手における作業集積についても推進し、生産拡大を図る。また、産地交付金を活用し大豆300A技術等の導入により単収向上や作柄の安定化を図る。

飼料作物については、団地化による作業効率の向上や生産経費の削減を図るとともに、本村担い手による作業集積を推進することで生産拡大を図る。

(5) そば、なたね

取組なし

(6) 地力増進作物

取組なし

(7) 高収益作物

収益性を見込める作物へ作付誘導するため、「ねぎ」は団地化による作業の効率化を図り、特に「アスパラガス」については産地化を目指し、産地交付金を最大限有効活用しながら独自助成も併せて推進していく。「白菜」「なす」「ほうれんそう」「タマネギ」「にんじん」「キャベツ」「ブロッコリー」「かぼちゃ」「ねぎ」「ばれいしょ」「きゅうり」「だいこん」「行者にんにく」「花き」「椎茸」についても地域振興作物として作付規模の拡大と農家所得の向上を図る。また、地域振興作物以外の野菜についても水田を活用した転換作物として推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

7 産地交付金の活用方法の概要

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	554.41		530		500	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	96.78		122		130	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	39.52		65		70	
加工用米	0.34		0.5		0.5	
麦	5.02	1.7	10	9	15	10
大豆	170.81		250		270	
飼料作物	43.8		45		50	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	16.2		20		24	
・野菜	12.03		15		17	
・花き・花木	4.17		5		7	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	0		0		0	
・						
畑地化	0		0		0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大豆 （基幹作物）	大豆300A技術等の取組 に対する助成	取組面積 単収	（令和3年度）170.8ha （単収）85.3kg/10a	（令和5年度）270.0ha （単収）100.0kg/10a
2	大豆、WCS用稲、飼料作物 （牧草）（基幹作物）	団地加算	取組面積 労働時間	（令和3年度） 大豆45.3ha、WCS用稲0ha、 飼料作物0ha （労働時間） 大豆14.0h/10a	（令和5年度） 大豆65.0ha、WCS用稲 10.0ha、飼料作物6.0ha （労働時間） 大豆12.5h/10a WCS用稲8.0h/10a、 飼料作物3.5h/10a
3	大豆、WCS用稲、飼料作物 （牧草）（基幹作物）	作業集積	取組面積 労働時間	（令和3年度） 大豆169.4ha、WCS用稲 39.5ha、飼料作物6.3ha （労働時間） 大豆15.0h/10a、 WCS用稲9.8h/10a、 飼料作物5.0h/10a	（令和5年度） 大豆270.0ha、WCS用稲 70.0ha、飼料作物10.0ha （労働時間） 大豆13.5h/10a、 WCS用稲8.5h/10a、 飼料作物4.0h/10a
4	野菜、花き、花木、果樹、 その他作物（基幹作物）	地域振興作物助成	地域振興作物 作物面積	（令和3年度）14ha	（令和5年度）19ha
5	飼料用米、WCS用稲 （基幹作物）	直播栽培への取組助成	取組面積 労働時間	（令和3年度）0ha	（令和5年度）14.0ha （労働時間）15.0h/10a
6	飼料用米の生産圃場の稲わら （基幹作物）	耕畜連携助成 （わら利用）	取組面積 <small>飼料用米の作付面積の内、耕畜連携 助成（稲わら）が占める割合</small>	（令和3年度）68.1ha （割合）69.8%	（令和5年度）110.0ha （割合）92.0%
7	麦（二毛作）	二毛作助成（麦）	取組面積	（令和3年度）1.7ha	（令和5年度）10.0ha
8	飼料用米	【国枠】飼料用米の複 数年契約助成	取組面積 数量 作付面積 数量	（令和3年度） 96.0ha 542 t 96.8ha 547 t	（令和5年度） 23.5ha 123 t 130.0ha 682 t

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:宮城県

協議会名:大衡村地域水田農業推進協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	大豆300A技術等の取組に対する助成	1	5,000	大豆	排水対策
2	団地加算	1	9,000	大豆, WCS用稲, 飼料作物(牧草) (基幹作物)	2ha以上の連坦した団地
3	作業集積	1	1,900	大豆, WCS用稲, 飼料作物(牧草) (基幹作物)	4ha以上の集積
4	地域振興作物助成	1	10,000	別紙のとおり	出荷・販売契約を行い収穫・出荷・販売
5	直播栽培への取組助成	1	5,000	WCS用稲, 飼料用米 (基幹作物)	直播栽培
6	耕畜連携助成(わら利用)	3	6,000	飼料用米の生産ほ場の稲わら (基幹作物)	3年以上の利用供給協定を締結
7	二毛作助成(麦)	2	10,000	麦(二毛作)	大豆との二毛作に取り組み、収穫・出荷・販売
8	【国枠】飼料用米の複数年契約助成	1	6,000	飼料用米	令和2年産及び令和3年産で新たに契約実需者と結んだ3年以上の契約

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

【別紙】

地域振興作物助成対象作物

区分	対象作物
野菜	白菜
	なす(長なす含む)
	ほうれんそう
	タマネギ
	にんじん
	キャベツ
	ブロッコリー
	かぼちゃ
	ばれいしょ
	きゅうり
	だいこん
	ねぎ(曲がりねぎ含む)
	にんにく
	行者にんにく
	アスパラガス
	しいたけ

区分	対象作物
花き・花木	宿根かすみ草
	トルコギキョウ
	ストック
	フリージア
	モルセラ
	菊(小菊含む)
	ヒペリカム
	ダイアンサス
	ペチュニア
	シクラメン
	けいとう
アスター	
果樹	りんご
	ぶどう